

肥料の鑑定方法(2023)の解説

肥料の鑑定方法は、肥料中の成分等を測定する分析方法とは異なり、形態の観察や使用原料の推定を行うものである。肥料の品質管理等にも用いることができることから、肥料生産業者や検査指導機関など肥料関係各方面から、新たな肥料や測定器の進歩に対応した鑑定方法が望まれていた。

このことから、FAMIC では、ふるい分け、比重分離など試料の調製操作及び顕微鏡観察、機器による同定など検出方法を体系的に整理するとともに、試験紙による肥料成分の検出方法や X 線回折装置による肥料の定性試験法、有機化合物を原料とする肥料、あるいは被覆肥料の樹脂系被覆原料の化合物を同定する FT-IR (フーリエ変換形赤外分光光度計) による同定法などの新たな同定方法を収載した「肥料の鑑定方法(2020)」を FAMIC のホームページに公表している。

「肥料の鑑定方法(2023)」は、新たに検討した顕微 FT-IR を用いて汚泥肥料及び堆肥に含まれるプラスチックを観察して判別する鑑定方法を追加収載した。それに伴い、目次の表現を変更し、また、鑑定方法の流れの記載を改めた。

本鑑定方法が肥料等の生産・品質管理、検査などに携わる方々にとって、品質の確保等の一助になることを期待する。

「肥料の鑑定方法(2023)」の作成にあたり、肥料等技術検討会の検討委員の皆様には、技術的な内容についてのご指導を賜り厚く感謝の意を表します。

2022 年度肥料等技術検討会 検討委員

(敬称略、五十音順、所属は 2023 年 2 月当時)

相崎万裕美	公益財団法人 肥料科学研究所
今川俊明	公益財団法人 日本肥糧検定協会
川崎 晃	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
成川知弘	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
野口 章	学校法人 日本大学
野田晴美	公益社団法人 日本食品衛生協会
藤森英治	環境省 環境調査研修所
安井明美	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
吉田充哉	一般財団法人 日本食品分析センター
渡邊敬浩	国立医薬品食品衛生研究所